

栄養管理、妊娠・授乳、がん…



静岡がんセンターから送られた、がん関連の冊子を店頭で手に取る太田勝啓さん＝浜松市天竜区のくすり東海堂薬局で

薬局 広がる相談機能

薬局が多機能化している。日時を決めて管理栄養士が栄養相談に乗ったり、薬剤師が、がん患者や家族の相談を受け付けたり。専門家は「薬物療法が高度化する中で、相談機能を一層充実させる時期に来ている」と指摘する。(佐橋大)

浜松市天竜区の「くすり東海堂薬局」は、「よろず相談薬局」の看板を掲げている。相談は静岡県立静岡がんセンター(同県長泉町)と、同県薬剤師会の共同事業。がんセンターで研修を受けた薬剤師が、県内の薬局十五カ所で、がんに関わる相談に乗っている。

抗がん剤の副作用や医療費の負担軽減の相談、さらには「病院で説明は受けたが、言葉が専門的でよく分からなかつた。意味を教えてほしい」といった内容もある。

薬剤師の知識で対応できる質問は答え、それ以外は、がんセ

は静岡県立静岡がんセンター(同県長泉町)と、同県薬剤師会の共同事業。がんセンターで研修を受けた薬剤師が、県内の薬局十五カ所で、がんに関わる相談に乗っている。

抗がん剤の副作用や医療費の負担軽減の相談、さらには「病

院で説明は受けたが、言葉が専門的でよく分からなかつた。意味を教えてほしい」といった内

容もある。

取り組みのベースは、日本薬剤師会が全国で進めてきた「健康新規まちかど相談薬局」の事業。研修を受けた薬剤師が、健康や介護の相談に乗る。太田さんは薬局も、そうした地域の健康を支える拠点の一つだ。

太田さんは「手がかさかさ」「せきが気になる」と客から体

薬局の多機能化に詳しい名古屋市立大薬学部の鈴木匡教授(五四)に、薬局の現状と今後について聞いた。

※ ※

僕が薬剤師になった三十

年ほど前、薬局は「頭が痛

れる方の頭の中が整理されることがある。病気で気分が落ち込んでいる人も多い。少しでも助けになれば」と話す。

心配事を聞き、必要と判断すれば医療機関の受診を勧め、そうでなければ適切な市販薬を勧める。「昔から潜在的にしてきたこと」といい、がんの「よろず相談」は、その機能に、さらに厚みを持たせる取り組みという。

「まちかど相談」に機能を付加する例は多い。愛知県では百八人の薬剤師が「妊娠・授乳サポート薬剤師」(滋賀県)、健康食品などの相談を受ける「薬食同源情報サロン」(岐阜県)などもある。

◆

三月に開店した岐阜県瑞浪市のトーカイ薬局メディカルゾーン瑞浪店では、毎月第四木曜日の午前、管理栄養士が来店者の栄養相談に応じる。調剤を中心とした薬局を愛知、岐阜両県で三十七店展開するトーカイメディカル(愛知県春日井市)が経営。松本成史社長は「ただ処方された薬を出すのではなく、薬剤師の専門性を生かして健康の相談に乗る『健康ステーション化』したい。薬局の原点に戻る取り組み。栄養士の方に協力をいただいたのは、より専門的になっている顧客のニーズに応えるため」と狙いを語る。

メディカルゾーン瑞浪店の栄

健康を支える拠点に



薬局の店頭で食事の疑問に答え、助言する管理栄養士=岐阜県瑞浪市のトーカイ薬局メディカルゾーン瑞浪店

「本来の役割取り戻す時」

か。高齢化が進み、国の財政も厳しい中、病気になる前に、一人一人が体をチェックを勧めるという相談業務が中心だった。その後、医療機関が処方箋を出し、薬局が薬を処方する医薬分業が進み、薬局によっては相談機能が薄れ、処方箋の不備指摘などの仕事が中心になつた。直接、体の不調の相談を受ける機会が減り、若い薬剤師は相談に応じるスケルがない。それでいいの

いながら、対策を講じるセルフメディケーションがより重要になっている。最近は日用品の販売で競合するス

クシ、対策を講じるセルフメディケーションがより重

要になっている。最近は日用品の販売で競合するス

クシ、対策を講じるセルフメディケーションがより重

要になっている。最近は日用品の販売で競合するス